

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	大学院の研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	コリウダガクホジシ ヌイコリウダガク 公立大学法人 新見公立大学								
フリガナ大学の名称	ニイコリウダガクカクイン 新見公立大学大学院 (Graduate School of Niimi University)								
大学本部の位置	岡山県新見市西方1263番地2								
大学の目的	<p>学術の理論及び応用を教授研究し、深奥を究め、学術と教育の振興を図り、保健・医療・福祉の増進と地域医療の発展に寄与するとともに、学術研究を創造的に推進する優れた研究者並びに高度で専門的な知識と能力を有する職業人を育成する。</p>								
新設学部等の目的	<p>中山間地域に暮らす全ての世代の「こころ」と「身体」の健康を支えるために、教育研究機関、行政機関、医療機関等で、全世代型地域包括ケア看護学の深化・推進に貢献する質の高い看護研究者を育成する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	健康科学研究科 [Graduate School of Human Health Sciences] 看護学専攻（博士後期課程） [Course of Nursing (Doctoral Course)]	3年	2人	—	6人	博士（看護学） [Doctor of Science in Nursing]	令和5年4月 第1年次	岡山県新見市西方 1263番地2	
	計		2		6				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>看護学研究科地域福祉学専攻修士課程（4）（令和4年3月認可申請） 看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（定員減）（△1）（令和4年度4月学則変更届出） 令和5年4月名称変更 看護学研究科→健康科学研究科（令和4年4月学則変更届出）</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	健康科学研究科 看護学専攻 （博士後期課程）	講義	演習	実験・実習	計	19単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	健康科学研究科 看護学専攻 （博士後期課程）	10 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)
		健康科学研究科 地域福祉学専攻 （修士課程）	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	14 (14)
	計		17 (17)	4 (5)	1 (1)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	— (—)
	既設	健康科学研究科 看護学専攻 （修士課程）	12 (12)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	8 (8)
計		12 (12)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	— (—)	
合計		19 (19)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		22 (22)	0 (0)	22 (22)					
	技 術 職 員		3 (3)	0 (0)	3 (3)					
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)	0 (0)	3 (3)					
	そ の 他 の 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)					
計			29 (29)	0 (0)	29 (29)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
	校 舎 敷 地	21,250㎡	0㎡	0㎡	21,250㎡					
	運 動 場 用 地	5,031㎡	0㎡	0㎡	5,031㎡					
	小 計	26,281㎡	0㎡	0㎡	26,281㎡					
	そ の 他	4,013㎡	0㎡	0㎡	4,013㎡					
	合 計	30,294㎡	0㎡	0㎡	30,294㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
		16,844.38㎡ (16,844.38㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	16,844.38㎡ (16,844.38㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	41室	15室	18室	3室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		健康科学研究科看護学専攻博士後期課程			14 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	看護学科及び大学院健康科学研究科看護学専攻(修士課程)と共用		
	健康科学研究科看護学専攻博士後期課程	23,831 [1,164] (22,831 [1,124])	35 [5] (35 [5])	4 [3] (3 [3])	360 (347)	420 (420)	5 (5)			
	計	23,831 [1,164] (22,831 [1,124])	35 [5] (35 [5])	4 [3] (3 [3])	360 (347)	420 (420)	5 (5)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		2,290.99㎡		161	100,000					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		3,617.97㎡		-						
経 費 積 累 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での算出不能なため学部との合計
		教員1人当り研究費等		320千円	320千円	320千円	-	-	-	
		共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	-	-	-	
		図書購入費	10,022千円	10,022千円	10,022千円	10,022千円	-	-	-	
	設備購入費	4,419千円	4,419千円	4,419千円	4,419千円	-	-	-		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	724千円(区域内) 818千円(区域外)	536千円	536千円	-	-	-				
学生納付金以外の維持方法の概要			大学運営交付金、資産運用収入、雑収入 等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	新見公立大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	健康科学研究科看護学専攻(修士課程)	2年	4人	-	8人	修士(看護学)	0.6	平成26年度	岡山県新見市西方1263番地2	
	健康科学部						1.06			
	健康保育学科	4	50	-	200	学士(保育学)	1.04	平成31年度		
看護学科	4	80	-	320	学士(看護学)	1.05	平成22年度			
地域福祉学科	4	50	-	200	学士(地域福祉学)	1.09	平成31年度			
附属施設の概要		該当なし								

教 育 課 程 等 の 概 要														
(健康科学研究科看護学専攻博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤科目	看護学研究方法特講	1前	2			○			3	2				オムニバス
	地域包括ケア看護学特講	1前	2			○			8	1				オムニバス
	応用看護統計学	1前		2		○				1				
	精神保健ケア特講	1前		2		○			1					
	小計(4科目)	—	4	4	0	—			9	3	0	0	0	
専門科目	地域生活支援システム看護学特講	1通		3		○			5	1				*演習 オムニバス・共同(一部) *演習 オムニバス・共同(一部)
	継続療養支援開発看護学特講	1通		3		○			3	2	1			
	小計(2科目)	—	0	6	0	—			8	3	1	0	0	
研究科目	看護学特別研究Ⅰ	1通	4				○		10	3	1			
	看護学特別研究Ⅱ	2通	4				○		10	3	1			
	看護学特別研究Ⅲ	3通	4				○		10	3	1			
	小計(3科目)	—	12	0	0	—			10	3	1	0	0	
合計(9科目)		—	16	10	0	—			10	3	1	0	0	
学位又は称号		博士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
看護学専攻博士後期課程の修了要件は、基盤科目から4単位以上、各自の研究課題に関連した専門科目から選択し3単位、看護学特別研究Ⅰの4単位及び看護学特別研究Ⅱの4単位、看護学特別研究Ⅲの4単位、合計19単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

教育課程等の概要																	
(健康科学研究科看護学専攻博士前期課程)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	研究科	健康科学特論	1前	2			○			1					兼5	オムニバス	
		健康科学英語	1前		2		○			1					兼1	オムニバス	
	看護学専攻	看護研究特論	1前	2			○			4	1						オムニバス
		看護実践と倫理	1後		2		○			1							
		看護教育特論	1後		2		○			2							オムニバス
		地域医療支援特論	1後	2			○			2						兼1	オムニバス
		学校保健特論	1前		2		○									兼1	
		看護管理特論	1後		2		○									兼1	
		精神保健特論	1前		2		○									兼1	
		統計学特論	1後		2		○				1						
		小計(10科目)	—	4	14	0		—		7	1	0	0	0		兼9	
専門科目	地域生活支援看護学領域	地域支援看護学特論	1前		2		○			1							
		高齢者ケア特論	1前		2		○			1							
		地域ケアマネジメント特論	1前		2		○			1							
		在宅看護支援特論	1前		2		○			1							
	小計(4科目)	—	0	8			—		4								
	療養支援看護学領域	療養支援看護学特論	1前		2		○			1	1					オムニバス	
		看護技術特論	1前		2		○			1	1					オムニバス	
		成人看護支援特論	1前		2		○			2						オムニバス	
		育成看護支援特論	1前		2		○			2						オムニバス	
	小計(4科目)	—	0	8	0		—		5	1	0	0	0				
専門科目	演習・研究	看護学課題演習	1後	2				○		9	1					オムニバス	
		特別研究Ⅰ	1通	4				○		10	2						
		特別研究Ⅱ	2通	4				○		10	2						
	小計(3科目)	—	12	0	0		—		10	2	0	0	0				
合計(21科目)		—	16	30	0		—		12	2	0	0	0				
学位又は称号	博士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)										
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
看護学専攻修士課程の修了要件は、共通科目から必修6単位以上、選択科目から4単位以上の計10単位以上、研究科課題の関連領域科目4単位および選択外の科目4単位以上の計8単位、演習・研究科目12単位以上の合計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。									1学年の学期区分			2期					
									1学期の授業期間			15週					
									1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要														
(健康科学部看護学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
地域群	にいみの文化	1前	1			○			1					
	にいみの保健医療福祉	1後	1			○			1					兼2
健康科学群	にいみ地域協働演習	1前		1			○		1					兼2
	地域防災論	2前		2		○			1	1				兼9
	地域防災演習	2前		1			○		1	1				兼5
	健康科学Ⅰ(健康・医療論)	1前	1			○			1					兼6
	健康科学Ⅱ(身体の仕組みと機能)	1前		1		○			1					兼4
	健康科学Ⅲ(基礎病態学)	1後		1		○								兼4
	健康科学Ⅳ(病気の治療)	1後		1		○								兼7
	チームアプローチ演習	3前	1				○		1	1				兼2
基礎	基礎ゼミナール	1前	1				○		11	3	5	13		
人間と文化	哲学	1前		2		○								兼1
	文学	1前		2		○			1					
	倫理学	1後		1		○								兼1
	美術	1前		2		○								兼1
	音楽	1前		2		○								兼1
人間と社会	日本国憲法	1前	2			○								兼1
	経済学	1後		1		○								兼1
	社会学	1前		2		○								兼1
	教育学	1後		2		○					1			
	心理学	1後		2		○								兼1
自然と情報	ICTリテラシーⅠ	1前	2			○			1					兼1
	ICTリテラシーⅡ	1後		2			○		1					兼1
	自然科学Ⅰ	1前		2		○								兼3
	自然科学Ⅱ	1後		2		○								兼3
人間と言語	英会話Ⅰ	1前	1			○								兼2
	英会話Ⅱ	2後		1		○								兼2
	英語Ⅰ	1後	1			○								兼1
	英語Ⅱ	2前	1			○								兼1
	健康科学英語	2前		1		○								兼1
	英語論文講読	3前		1			○		1					兼1
	国際コミュニケーション	1~4通年		1			○	○						兼1
	手話	1前		2			○							兼1
国語表現法	1後		2		○			1						
スポーツ	スポーツ実習A	1後	2					○						兼1
	スポーツ実習B	1前		1				○						兼1
	生涯スポーツ論	1前		1		○								兼1
小計(37科目)			16	37	0	-			11	3	5	13	兼42	
専門基礎分野	医療概論	1後	1			○			1					兼1
	保健医療統計学Ⅰ(基礎)	1後	1			○				1				
	保健医療統計学Ⅱ(応用)	3前	1				○			1				
	社会福祉	1前		1		○								兼1
	保健医療福祉法制	2後	1			○			1					
	保健医療福祉行政論	3前	2			○			1					
	人間関係論	2前		1		○								兼1
	カウンセリング	3前		1		○								兼1
	国際保健論	3前	1			○								兼1
	ボランティア論	3前		1		○								兼1
地域ボランティア活動	1~4通年		1			○		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 基礎 分野	生命のしくみ	人体構造学	1前	2			○			1					兼1 兼1 兼1 兼1	
	人体機能学	1前	2			○			1							
	生命活動と代謝	1後	2			○										
	微生物学	1後	1			○			1							
	基礎病理学Ⅰ（総論）	2前	1			○										
	基礎病理学Ⅱ（各論）	2後	1			○										
	薬と健康	2前	1			○										
	医療情報	2前	1			○				1			1			
	健康障害と医療	病態治療学A（腎・泌尿器・内分泌・代謝）	1後	1			○								兼2	オムニバス
		病態治療学B（脳・神経・運動器・放射線医学）	2前	1			○								兼4	オムニバス
		病態治療学C（呼吸器・血液・循環器）	2前	1			○								兼4	オムニバス
		病態治療学D（外科各論・消化器）	2後	1			○								兼8	オムニバス
		女性の健康と疾患	2前	1			○								兼4	オムニバス
		小児の健康と疾患	2前	1			○								兼2	オムニバス
心の健康と疾患		2後	1			○								兼1		
薬と疾病		2後	1			○								兼1		
臨床栄養学	1後	1					○						兼1	※講義		
疫学	3前	2			○				1							
疫学調査・疫学演習	3後		1				○		2	1		1				
地域リハビリテーション論	3前		1				○							兼1		
小計(31科目)				29	7	0		—		4	1	0	1	0	37	
専門 分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1前	2			○			1	1				兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
		健康生活援助技術論	1前	1				○		1	1	2	2			
		療養生活援助技術論Ⅰ	1前	1				○		1	1	2	2			
		療養生活援助技術論Ⅱ	1後	1				○		1	1	2	2			
		フィジカルアセスメント	1後	1				○		1	1	2	2			
		看護過程論	2前	1				○		1	1	2	2			
		健康障害援助技術論Ⅰ	2前	1				○		1	1	2	2			
		健康障害援助技術論Ⅱ	2後	1				○		1	1	2	2			
		臨床判断と臨床看護学総論	2後	2				○		1	1	2	2			
		基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					○	1	1	2	2			
	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2					○	8	3	5	13				
	地域・在宅看護論	地域看護学	1後	1			○			2					兼2	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
		地域医療論	3前	1			○			1						
		在宅看護論	2前	2			○			1						
在宅看護援助論		2後	2				○		1	1						
成人看護学	在宅看護実習	3後・4前	2					○	1		1	1				
	成人看護学概論	1後	2			○			1					兼2	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス	
	成人看護学援助論A（慢性期）	2前	2			○			1		1	1				
	成人看護学援助論B（急性期）	2後	2			○			2		1	3				
	成人看護学援助論C（緩和ケア）	3前	1			○			2		1	3				
	成人看護学実習A（慢性期）	3後・4前	3					○	2		1	3				
成人看護学実習B（急性期）	3後・4前	3					○	2		1	3					
老年看護学	老年看護学概論	1後	2			○			1					兼2	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス	
	老年看護援助論	2前	2				○		1			2				
	老年看護学実習	3後・4前	2					○	1			2				
	生活支援看護学実習	3後・4前	2					○	1			2				
精神看護学	精神看護学概論	2前	2			○				1				兼2	オムニバス オムニバス オムニバス	
	精神看護学援助論	2後	2				○			1	1					
	精神看護学実習	3後・4前	2					○		1	1					
母性看護学	母性看護学概論	2前	2			○								兼1	オムニバス オムニバス オムニバス	
	母性看護学援助論	2後	2				○		1			2				
	母性看護学実習	3後・4前	2					○	1			2				
小児看護学	小児看護学概論	2前	2			○			1			2		兼2	オムニバス オムニバス オムニバス	
	小児看護学援助論	2後	2				○		1			2				
	小児看護学実習	3後・4前	2					○	1			2				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
看護の探求と発展	看護倫理	3後	1			○			1						兼1	
	看護管理	3前	2			○										
	統合実習	4前	2					○	8	3	5	13				
	救命救急医療論	3後	1				○			1		2				
	看護生涯教育論	3後		1		○				2						
	臨床コミュニケーション論	3前		1		○			1							
	継続看護論	3前		1		○			2							
	臨床援助技術論	4後		1			○			1						
	インターンシップ実習	4後		1				○	2							
	卒業研究Ⅰ（基礎編）	3後		2		○			8	3	5					
卒業研究Ⅱ（実践編）	4前・後		2			○		8	3	5						
専 門 分 野	訪問看護展開論Ⅰ	3前		2		○			1					兼1	オムニバス	
	訪問看護展開論Ⅱ	3後		2		○			1			2		兼1	オムニバス	
	訪問看護展開論実習	4前		4				○	1							
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2後		2		○			2					兼1		
	公衆衛生看護管理論	4前		2		○										
	地域ケアシステム論	4後		2		○			1							
	公衆衛生看護活動展開論	3前		1		○			1							
	健康教育論	3前		1		○			1							
	地域保健指導論Ⅰ（基礎）	3後		2		○			2			1			オムニバス	
	地域保健指導論Ⅱ（応用）	4前		1		○			2			1			オムニバス	
	産業保健	3前		1		○									兼1	
	学校保健	3前		1		○			1							
	公衆衛生看護学実習Ⅰ（基礎）	4前・後		1				○	2			1				オムニバス
公衆衛生看護学実習Ⅱ（応用）	4前・後		4				○	2			1			オムニバス		
野	健康相談活動	3後		2		○			1					兼1		
	養護概説	3前		2		○			1							
	学校救急処置	3後		1		○			1							
	教職基礎論	1後		2		○						1				
	教育原理	3前		2		○						1				
	教育心理学	3前		2		○									兼1	
	特別支援教育	3前		2		○									兼2	オムニバス
	道徳教育の理論と実践	3前		2		○									兼1	
	生徒指導論	3前		2		○									兼1	オムニバス
	教育相談(養)	3前		2		○									兼1	オムニバス
教職実践	養護実習指導	4前		1				○	2					兼1		
	養護実習	4後		4				○	2							
	教職実践演習	4後		2				○	2							
小計(83科目)		71	57	0				9	3	6	13	0	兼13			
合計	151科目		116	101	0				12	3	6	13	0	兼92		
学位又は称号		学士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>共通科目(基礎分野)は、必修科目16単位、選択科目4単位以上の20単位以上、専門基礎分野は、必修科目29単位、選択必修科目1単位、選択科目2単位以上の32単位以上、専門分野は、必修科目71単位、選択科目2単位以上の73単位以上の計125単位以上とする。</p> <p>*訪問看護・地域看護コースは、共通科目(基礎分野)として必修科目16単位、選択科目4単位以上の20単位以上、専門基礎分野は、必修科目29単位、選択必修科目1単位、選択科目2単位以上の32単位以上、専門分野は、必修科目71単位、選択科目2単位以上、「看護の探求と発展」の『継続看護』、「訪問看護・地域看護」9単位の82単位以上の計134単位以上とする。</p> <p>*保健師教育課程は、共通科目(基礎分野)として必修科目16単位、選択科目4単位以上の20単位以上、専門基礎分野は、必修科目30単位、選択必修科目1単位、選択科目1単位の32単位、専門分野は、必修科目71単位、選択科目1単位以上、「公衆衛生看護学」18単位の90単位以上の計142単位以上とする。</p> <p>*養護教諭養成課程は、共通科目(基礎分野)として必修科目16単位、選択科目4単位以上の20単位以上、専門基礎分野は、必修科目29単位、選択必修科目1単位、選択科目2単位以上の32単位以上、専門分野は、必修科目71単位、選択科目2単位以上、「養護科目」「教職」「基礎理解」「教職課程」「教職実践」28単位の101単位以上の計153単位以上とする。</p>							1学年の学期区分		2期							
							1時限の授業時間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

授 業 科 目 の 概 要			
健康科学研究科看護学専攻 博士後期課程			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基 盤 科 目	看護学研究方法特講	<p>（概要） 看護関連分野における研究論文の精読を通して、研究課題の明確化や研究計画立案、論文作成の際の留意点について理解を深める。看護研究に必要な倫理について理解し、研究・教育に活かすとともに、研究成果を広く社会に発信するために必要な学会や学術雑誌に発表するための論文作成・プレゼンテーション技法を修得する。全体を通して、看護学研究を遂行するための方法について理解を深める。 （科目責任者：上山和子）</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（12 上山和子／5回） 看護学研究プロセスを概観し、看護の実践、教育などの看護専門職として系統的に知識を探究し、看護学研究と社会貢献との関係を追究できる研究能力を修得できるように教授する。</p> <p>（2 矢庭さゆり／3回） 看護政策の動向を踏まえ、看護の現場で起きている様々な現象や課題について研究に取り組み、看護政策のあり方を探究し、看護理論に基づいた看護実践について教授する。</p> <p>（① 土井英子／3回） 看護理論を基盤とした看護研究の意義、看護実践と看護モデル開発のための理論や方法について教授する。看護研究に必要な看護倫理について教授する。</p> <p>（11 山田雅夫／2回） 看護研究と生命倫理について概説する。特に研究倫理では、現行の『人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針』を中心に解説する。医療系学術論文の格付け、論文の構成などを紹介し、論文執筆にあたってテクニカルライティングの手法を中心に教授する。</p> <p>（13 矢嶋裕樹／2回） 量的看護研究で用いられる疫学研究デザインの特徴について解説する。また、エビデンスレベルの高い量的看護研究の成果を統合するシステムティックレビューおよびメタ解析の方法について教授する。</p>	オムニバス方式



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	地域包括ケア看護学特講	<p>(概要) 地域の全世代のあらゆる健康レベルにある人々の健康を維持、増進するために必要な看護の視点を学ぶ。各自治体等報告資料や国内外の地域包括ケアに関する実践研究を探究する。そのうえで、中山間地域における地域包括ケアの深化・推進のために、重層的な多職種連携による支援体制の構築を図り健康課題解決に向けたアプローチについて学修する。 (科目責任者：矢庭さゆり)</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 矢庭さゆり／4回) 地域包括ケアの概念、わが国の保健医療福祉政策の現状と課題を探究し、地域包括ケア看護学を確立するうえで必要な基礎理論を教授する。地域包括ケア看護の実践に向けた課題解決策について、創造的アプローチについて教授する。</p> <p>(12 上山和子／1回) 小児の地域包括ケアを提供するために保健医療福祉機関との連携・協働について教授する。</p> <p>(4 金山時恵／2回) 中山間地域における地域医療と地域看護の現状と課題および地域包括ケアの課題に対する解決方法について教授する。</p> <p>(3 四宮美佐恵／2回) 母子のための地域包括ケアを提供するために、医療機関と地域の関係機関が実施している連携・協働の現状と課題を教授する。</p> <p>(6 木下香織／1回) 中山間地域の高齢者、とくに認知症の高齢者と家族に向けた地域包括ケアの現状と課題について教授する。</p> <p>(7 栗本一美／2回) 中山間地域の地域包括ケアにおける看護の現状と課題について検討する。中山間地域の地域包括ケアにおける多職種連携・協働によるチームアプローチの現状と課題について教授する。</p> <p>(② 磯本暁子／1回) ヘルスプロモーションについて成人期から老年期の患者の実践事例から地域包括ケア看護の現状と課題を理解し、課題解決策について教授する。</p> <p>(9 塩見和子／1回) 成人期から老年期の患者の看護実践事例から地域包括ケア看護の現状と課題を理解し、課題解決策について教授する。</p> <p>(10 井上真一郎／1回) 精神保健に関する地域包括ケアの現状と課題について教授する。</p>	オムニバス方式
	応用看護統計学	<p>(概要) 地域住民や児童、学生、高齢者、患者など、多種多様な集団を対象とした質問紙調査とデータ解析事例に基づき、健康問題の解決に役立つ理論・モデルの開発と検証のための一連の統計学的手法について教授する。また、健康の心理社会的要因およびアウトカムに関する尺度開発研究の成果を踏まえ、因子分析的手法等の概念の測定に不可欠な尺度の開発及び検証に必要な統計学的手法についても教授する。</p>	
	精神保健ケア特講	<p>(概要) 地域における全世代を対象としたこころと身体の健康について、専門職として必要とされる精神保健医療福祉に関する知識・技術を体系的に理解するとともに、地域の健康課題についてパブリックヘルス・マインドを持った具体的な対策と提案についてのマネジメントについて教授する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域生活支援システム看護学特講	<p>(概要)  中山間地域で生活している全世代の健康問題や支援の課題について学ぶ。対象者とその家族が安心した在宅生活を継続できる支援システムと看護専門職のあり方について探求する。担当教員からの講義内容をふまえてディスカッションを行い、各テーマにおける課題を考察する。  (科目責任者：矢庭さゆり)</p> <p>(オムニバス方式／全23回)</p> <p>(2 矢庭さゆり／5回)  地域包括ケアに関する保健・医療・福祉政策、地域包括ケアにおける地域生活支援システムの現状と課題、中山間地域で生活する成人期から高齢期の健康ニーズ、全世代・全対象の健康維持・増進、疾病予防、重症化予防に必要な支援、多職種連携、地域生活支援システムの構築について教授する。</p> <p>(4 金山時恵／3回)  中山間地域で生活する人への保健的アプローチ、中山間地域で生活する子どもと家族の看護の現状と課題、予防から健康増進・健康づくりに至る包括的な自立の支援における看護の役割について教授する。</p> <p>(3 四宮美佐恵／3回)  中山間地域で生活する女性の生涯における看護の現状と課題、女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関する現状と課題について教授する。生涯にわたる女性の身体的・精神的・社会的・経済的な側面に対する必要な看護およびその現状と課題について教授する。</p> <p>(6 木下香織／3回)  中山間地域で生活する高齢者の現状と看護の課題、中山間地域で生活する高齢者を取り巻く家族の現状と看護の課題について教授する。中山間地域で生活する高齢者と家族を対象とした介護予防から要介護状態およびエンドオブライフケアまでの看護の役割と支援について教授する。</p> <p>(10 井上真一郎／3回)  中山間地域で生活する全世代を対象としたこころの健康について、精神保健の課題を抽出し、地域に根ざした精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて教授する。</p> <p>(13 矢嶋裕樹／3回)  援助要請研究の意義と現状および援助要請研究の課題と今後の展望について教授する。研究のレビュー・プレゼンテーションを実践的に学ぶ。</p> <p>(2 矢庭さゆり、3 四宮美佐恵、4 金山時恵、6 木下香織、10 井上真一郎、13 矢嶋裕樹／3回) (共同)  合同セッション シームレスな地域生活支援の現状と課題、まとめ</p>	オムニバス方式 共同 (一部) 講義30時間 演習15時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	継続療養支援開発看護学特講	<p>(概要) 医療機関で療養している全世代のあらゆる健康レベルにある患者の看護のケアの質を保障するために必要な看護の実践について学ぶ。国内外の経過別看護に関する実践研究をふまえ、医療機関から在宅や施設（在宅や施設から医療機関）への移行に伴う職種間の連携や看護専門職の役割と機能について探究するとともに、アプローチについて学修する。担当教員からの講義内容をふまえてディスカッションを行い、各テーマにおける課題を考察する。 (科目責任者：土井英子)</p> <p>(オムニバス方式／全23回)</p> <p>① 土井英子／5回 継続療養支援看護の概念、看護理論・看護哲学を基盤とした保健医療福祉に関する療養支援について教授する。チーム医療における看護専門職としての役割と機能について教授する。</p> <p>⑫ 上山和子／3回 育成期の子どもや家族における看護の現状と課題、地域における子育て世代の地域包括ケアについて教授する。小児期から成人期への移行支援の現状と課題について教授する。</p> <p>⑦ 栗本一美／3回 在宅療養生活における看護の現状と課題、在宅生活を送る療養者の看護の現状と課題、および在宅生活を送る療養者を取り巻く家族の現状と課題について教授する。中山間地域で療養生活を送る療養者とその家族を対象とした在宅での暮らしを継続するために必要な看護の役割と支援について教授する。</p> <p>② 礪本暁子／3回 急性期・回復期における看護の現状と課題および療養の場の移行に伴う現状と課題について教授する。療養支援における看護専門職の役割について教授する。</p> <p>⑨ 塩見和子／3回 成人期～老年期の患者を対象とした慢性期・リハビリ期における看護の現状と課題および療養の場の移行に伴う看護の現状と課題、看護専門職の役割および支援について教授する。</p> <p>③ 山本智恵子／3回 療養支援におけるEBP (Evidence-Based Practice) 看護技術の現状と課題について教授する。看護の臨床的専門技能の視点から看護専門職の役割と機能について教授する。</p> <p>① 土井英子、⑦ 栗本一美、② 礪本暁子、⑨ 塩見和子、⑫ 上山和子、③ 山本智恵子／3回 (共同) 合同セッション シームレスな継続療養支援の現状と課題、まとめ</p>	オムニバス方式 共同 (一部) 講義30時間 演習15時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	看護学特別研究 I	<p>(概要) 自身の研究テーマに関連する国内外の研究論文を幅広く収集し、精読・クリティークを行う。また、議論を通して研究課題の絞り込みを行い、研究提案書を作成する。</p> <p>(2 矢庭さゆり) 地域で生活する様々な健康レベルの高齢者等の健康とQOLの維持向上に関する国内外の先行研究をクリティークし、地域包括ケア看護における研究課題の明確化と研究提案書の作成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(1 小田 慈) 看護の実践における小児がんなど小児医療に関する研究について、国内外の文献を調査し、研究課題の明確化と研究提案書の作成について指導する。</p> <p>(3 四宮美佐恵) 女性とその家族を生涯にわたり身体的・精神的・社会的・経済的な側面から包括的にとらえ、支援するシステムを構築するために先行研究を検討し、研究課題の明確化と研究提案書の作成を指導する。</p> <p>(4 金山時恵) 中山間地域で暮らす地域住民の健康意識、健康行動などから健康課題とその解決のための支援方法、さらにセルフケア能力の向上に向けた支援などについて先行研究を検討し、研究課題の明確化と研究提案書の作成に向けて指導する。</p> <p>(① 土井英子) 健康障害をもった対象やその家族への療養支援のあり方、看護アドボカシー、看護実践を行う上での倫理的なジレンマなど、地域包括ケアに基づいた質の高い療養支援につながる研究課題について先行研究を検討し、研究課題の明確化と研究提案書の作成を指導する。</p> <p>(6 木下香織) 中山間地域の高齢者が、住み慣れた地域で最期までその人らしく生活・療養ができる看護・支援システムにつながるリサーチクエスチョンを明確にできるよう先行研究を検討し、研究提案書の作成に向けて指導する。</p> <p>(7 栗本一美) 在宅看護の対象者（療養者とその家族）が、住み慣れた地域で生活を継続するための看護実践の在り方や、在宅療養生活を支えるサービス提供者についてなど、地域包括ケアに基づいた質の高い在宅療養生活につながる研究課題について先行研究を用いて検討し、研究課題の明確化と研究提案書の作成に向けて指導する。</p> <p>(② 磯本暁子) がん診断期から治療を終えた経過観察の時期までの継続的な看護とQOLの維持向上を目指し、がんと共に生きるがんサバイバーに関する先行研究を系統的に収集、批判的に分析することを通して、研究課題の焦点化と研究提案書の作成に向けた指導を行う。</p> <p>(9 塩見和子) 看護専門職の育成に係る看護基礎教育に関する特定分野の先行研究のクリティーク、および関連の書物より史実を読み解き、研究課題とその意義について明確にし、研究提案書の作成に向けて指導する。</p> <p>(10 井上真一郎) 中山間地域における全世代のこころと身体の健康を支援する地域包括ケアシステムの構想にあたり、地域における精神疾患への対応について研究課題を明確化し、研究提案書の作成を指導する。</p> <p>(11 山田雅夫) ウイルスを含む各種病原体による感染症発生メカニズムなどについて研究を行う。各種感染症の予防、各種感染症の診断と治療と看護、院内感染対策などについて、内外の文献を調査し研究の方向（企画）を定めるよう指導する。</p> <p>(12 上山和子) 小児の急性期看護および外来看護から家庭療養に向けた支援方法、小児の地域包括ケアのあり方について先行研究から課題を明確化し、研究提案書の作成を指導する。</p> <p>(13 矢嶋裕樹) 地域住民の心身の健康をはじめとする健康アウトカムの分布や要因に関する研究論文を包括的かつ広範に収集・レビューし、自身の研究の位置づけや意義を明確にするとともに、具体的かつ実現可能な研究仮説の構築に向けた指導を行う。</p> <p>(③ 山本智恵子) 地域医療・看護実践における看護の臨床判断、看護技術などの看護実践に関する研究課題について国内外の先行研究をクリティークし、質の高い看護実践につながる研究課題を明確にし、研究提案書の作成を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	看護学特別研究Ⅱ	<p>(概要) 看護学特別研究Ⅰに引き続き、自身の研究課題のさらなる明確化を行う。また、適切な研究手法を検討し、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などを指導し、研究計画書の作成までを行えるよう指導する。</p> <p>(2 矢庭さゆり) 地域で生活する様々な健康レベルの高齢者等の健康とQOLの維持向上を目指し、地域包括ケア看護の実践に寄与できる研究を行うための研究計画書の立案に向けた研究指導を行う。</p> <p>(1 小田 慈) 看護の実践における小児がんなど小児医療に関する研究を行うための研究計画書の立案に向けて指導する。</p> <p>(3 四宮美佐恵) 「女性の生涯とその家族の包括的な支援」に関する現状と課題を明確にするために研究方法の検討を行い、質的・量的研究手法を用いた研究計画書の立案に向けて指導する。</p> <p>(4 金山時恵) 中山間地域で暮らす地域住民の健康意識、健康行動などから健康課題とその解決のための支援方法、さらにセルフケア能力の向上に向けた支援などについて、具体的に研究計画を練り、研究計画書の立案に向けて指導する。</p> <p>(① 土井英子) 健康障害をもった対象やその家族への療養支援のあり方、看護アドボカシー、看護実践を行う上での倫理的なジレンマなど、地域包括ケアに基づいた質の高い療養支援につながる研究課題について、具体的に研究計画を練り、研究計画書の立案に向けて指導する。</p> <p>(6 木下香織) 中山間地域の高齢者が住み慣れた地域で最期までその人らしく生活・療養ができる看護・支援システムの構築を検討し、中山間地域の高齢者看護の質の向上に寄与する研究の計画立案に向けて指導する。</p> <p>(7 栗本一美) 在宅看護の対象者（療養者とその家族）が、住み慣れた地域で生活を継続し続けるための看護実践の在り方や、在宅療養生活を支えるサービス提供者について、地域包括ケアに基づいた質の高い在宅療養生活につながる研究課題について、具体的に研究計画を練り、研究計画書の立案に向けて指導する。</p> <p>(② 磯本暁子) がんサバイバーの継続的看護とQOLの維持向上を目指し、特別研究Ⅰで焦点化した研究課題と目的の明確化、研究課題に関連した中心的概念の整理、研究方法の検討等を行い、研究計画書の立案に向けた指導を行う。</p> <p>(9 塩見和子) 看護基礎教育に関する特定分野の課題について、さらに研究論文および関連の書物を読み込み、適切な研究手法を検討し、看護教育実践の質の向上に寄与できる教育研究を行うための研究計画立案に向けて指導する。</p> <p>(10 井上真一郎) 中山間地域における全世代のこころと身体の健康を支援する地域包括ケアシステムの課題として、地域における精神疾患への対応について具体的に研究計画を練り、地域包括ケア看護の実践に寄与できる研究を行うための研究計画書の立案に向けた指導を行う。</p> <p>(11 山田雅夫) ウイルスを含む各種病原体による感染症発生メカニズムなどについて研究を行う。各種感染症の予防、各種感染症の診断と治療と看護、院内感染対策などについて、具体的に研究計画を練り、研究計画書の立案に向けて指導する。</p> <p>(12 上山和子) 小児看護における地域包括ケアとして家庭療養に向けた支援の構築を検討し、看護実践を導くための研究活動を量的・質的研究手法を用いて研究計画書を立案し、研究を進めるよう指導する。</p> <p>(13 矢嶋裕樹) 地域住民の心身の健康をはじめとする健康アウトカムの分布や要因をふまえた研究提案書のテーマに関する国内外の文献を収集・レビューし、テーマに関する理論や概念についての知識や理解を深める。また、データ収集法や分析方法、倫理的な配慮などについて具体的に検討し、科学性と公正性を備えた研究計画書を作成できるように助言・指導する。</p> <p>(③ 山本智恵子) 地域医療・看護実践における看護の臨床判断、看護技術などの看護実践のあり方に関する研究を行う。質の高い看護実践を導くための研究計画立案に向けて研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	看護学特別研究Ⅲ	<p>(概要) 看護学特別研究Ⅱに引き続き、研究計画書に従ってデータの収集、データ分析、結果の解釈などを行なう。その後、研究成果を博士論文としてまとめるとともに、発表会や博士論文の審査に向けてプレゼンテーションの技法を学ぶ。</p> <p>(2 矢庭さゆり) 地域で生活する様々な健康レベルの高齢者等における地域包括ケア看護に関する研究実施に向けて自主的に取り組むことができるよう指導するとともに、一連の研究プロセスを通して学位論文の作成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(1 小田 慈) 看護の実践における小児がんなど小児医療に関する研究課題に対し、研究計画書に沿って取り組み、得られた結果を研究論文としてまとめるための指導を行う。</p> <p>(3 四宮美佐恵) 女性とその家族を生涯にわたり身体的・精神的・社会的・経済的な側面から包括的に支援するシステムの構築に関する研究成果について論文としてまとめるための指導を行う。</p> <p>(4 金山時恵) 中山間地域で暮らす地域住民の健康意識、健康行動などから健康課題とその解決のための支援方法、さらにセルフケア能力の向上に向けた支援などについて、包括的に支援するシステムの構築に関する研究成果について、論文作成に向けて指導する。</p> <p>(① 土井英子) 健康障害をもった対象やその家族への療養支援のあり方、看護アドボカシー、看護実践を行う上での倫理的なジレンマなど、質の高い療養支援につながる研究課題について、包括的に支援するシステムの構築に関する研究成果について論文としてまとめるための指導を行う。</p> <p>(6 木下香織) 中山間地域の高齢者が住み慣れた地域で最期までその人らしく生活・療養ができる看護・支援システムの構築に関する研究成果について論文作成に向けて指導する。</p> <p>(7 栗本一美) 在宅看護の対象者（療養者とその家族）が、住み慣れた地域で生活を継続し続けるための看護実践の在り方や、在宅療養生活を支えるサービス提供者について、地域包括ケアに基づいた質の高い在宅療養生活の維持向上に資する看護介入方法について、一連の研究プロセスを経て論文作成に向けた指導を行う。</p> <p>(② 磯本暁子) 研究計画書に基づいて、一連の研究過程を踏み、がんサバイバーの継続的看護とQOLの維持向上に資する看護介入方法と評価について考察を深め、論文作成に向けた指導を行う。</p> <p>(9 塩見和子) 研究計画書に沿って実施した看護教育実践の結果を評価・考察し、新たな知見を基に看護教育の質の向上に寄与できる論文作成に向けて指導する。</p> <p>(10 井上真一郎) 中山間地域における全世代のこころと身体の健康を支援する地域包括ケアシステムの構築に向け、地域における精神疾患への対応に関する研究成果について論文としてまとめるための指導を行う。</p> <p>(11 山田雅夫) ウイルスを含む各種病原体による感染症発生メカニズムなどについて研究を行う。各種感染症の予防、各種感染症の診断と治療と看護、院内感染対策などについて、研究論文としてまとめるための指導を行う。</p> <p>(12 上山和子) 小児看護における地域包括ケアとして家庭療養に向けた支援の構築を検討し、看護実践を導くための研究活動を量的・質的研究手法を用いて検証し、得られたデータを基に研究論文としてまとめるための指導を行う。</p> <p>(13 矢嶋裕樹) 地域住民の心身の健康をはじめとする健康アウトカムの分布や要因に関し研究計画書に沿って、データ収集・分析を行い、その結果を適切に解釈するとともに、多面的・多角的な考察を加えて学術論文を作成する。一連の研究プロセスを通じて、自立した研究者として必要な態度や能力が身につけられるよう助言・指導を行う。</p> <p>(③ 山本智恵子) 地域医療・看護実践における看護の臨床判断、看護技術などの看護実践のあり方に関する研究を行う。質の高い看護実践につながる論文作成に向けて指導を行う。</p>	

## 新見公立大学大学院の改組に関わる組織の移行表

令和4年度                      入学定員   編入学定員   収容定員

新見公立大学			
健康科学部			
健康保育学科	50	—	200
看護学科	80	—	320
地域福祉学科	50	—	200
助産学専攻科	5	—	5
計	185	—	725
新見公立大学大学院			
看護学研究科			
看護学専攻(M)	5	—	10
計	5	—	10



令和5年度                      入学定員   編入学定員   収容定員   事由

新見公立大学				
健康科学部				
健康保育学科	50	—	200	
看護学科	80	—	320	
地域福祉学科	50	—	200	
助産学専攻科	5	—	5	
計	185	—	725	
新見公立大学大学院				
健康科学研究科				名称変更(届出)
看護学専攻(M)	<u>4</u>	—	8	定員変更(届出)
地域福祉学専攻(M)	<u>4</u>	—	8	専攻の設置(認可申請)
看護学専攻(D)	<u>2</u>	—	6	課程の設置(認可申請)
計	<u>10</u>	—	<u>22</u>	